

平成22年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	墓地管理事業				開始年度	昭和55年度		
基本目標	墓地の整備				終了年度			
担当課(局)	町民生活課	担当係	環境保全係	記入者	鳥取 和弘		評価者	三浦 敏
21年度決算	416	千円	22年度予算	1,055	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助	<input checked="" type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	1,822 千円		22年度人件費	1,808 千円		事業従事者数	0.25 人	0.25 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	墓地の管理
事業の内容	墓地の管理

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 新規区画増設(唐木戸霊園)	高齢化が進み需要が増している町営墓地の区画増設を行い、住民ニーズに応えた。
	2	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 使用許可	墓地使用希望者の申請(随時事務)として、町営墓地ならびに地区墓地の使用許可を
	2 改葬許可	墓地改葬希望者の申請(随時事務)として、町営墓地ならびに地区墓地の改葬許可を
	3	

◎達成状況

指標名		単位	20年度	21年度	22年度	
成果指標	新規区画増設(唐木戸霊園)	目標値	0	4	4	
		実績値	0	3		
		達成率	%	#DIV/0!	75.0%	
	0	目標値				
		実績値				
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	
	活動指標	使用許可	目標値	36	27	
			実績値	36	27	
			達成率	%	100.0%	100.0%
改葬許可		目標値	24	28		
		実績値	24	28		
		達成率	%	100.0%	100.0%	
0		目標値				
		実績値				
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	

◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	高鍋町営墓地の設置及び管理に関する条例により「唐木戸墓地」を管理。火葬・埋葬及び改葬の許可を市町村が行うこと(墓地及び埋葬に関する法律)になっており(火葬・埋葬の許可証発行は、戸籍の死亡届出時)、改葬及び(町所有)地区墓地等の使用許可の事務を行う。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	墓地の使用管理を行うことで、墓地使用者や空き区画の把握ができる。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	経費的には、唐木戸霊園の除草に係るものがほとんどで地区に委託している。他の地区墓地(町所有地)の管理は、地区住民によって行われており、墓地使用者の申請にともなう随時事務(使用許可・改葬許可の発行)のみ関与となるため経費や時間の削減余地はなし。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	地区住民、墓地使用者による草刈作業等

事務事業名	墓地管理事業	担当課(局)	町民生活課
-------	--------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	<p>◎担当の方針に対する評価者としての所見</p> <p>◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等</p>	<p>墓地管理、経営主体は、「墓地、埋葬等に関する法律」並びに平成12年厚生省生活衛生局長による「墓地経営・管理の指針等について」において、市町村等の地方自治体が原則とされており、その他でも宗教法人、財団法人に限られているため、当然事業継続並びに事業の拡充は必須であり、町民の負託に応えなければならないと考える。</p> <p>なお、唐木戸霊園については、通常の増設は困難な状況であるが、地区墓地と間の空き地部分において増設が可能かどうか調査するとともに、他の場所の開発も視野に入れた検討が必要な時期にきていると考える。</p>	今後の方向性					
			事業の方向性	拡充				○
				現状維持				
				縮小				
				廃止				
			廃止	縮小	現状維持	拡充		
コスト								

事務事業評価委員会 評価欄	事業	拡充	<p>◎近年、墓地の需要が高まっており、唐木戸霊園の区画増等の対応が必要である。(来年度は、緊急雇用創出事業を活用し、墓地台帳の整備を図る予定)</p> <p>※評価対象として馴染まない、という意見が複数あったため、次回以降に要検討。</p>
	コスト	拡充	